キャラクター名
アウラ

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー ブラム＝ストーカー	ワークス	レネゲイドビーイングC	カヴァー	遺産の守護者
オプショナル		年齢		性別	
覚醒	素体	衝動	破壊	初期侵食率	42 %
出自	人工生命	経験	喪失	邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	0	0			3
感覚	2	0	0			2
精神	2	1	0		4	7
社会	1	0	0			1

HP	33
行動値	11
(非装備時)	11
戦闘移動	16
全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	6		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
通常	ＲＣ	10r+8		27		HP3+3点消費。
60%	ＲＣ	11r+8		27		HP3+3点消費。
80%	ＲＣ	12r+8		27		HP3+3点消費。
100%	ＲＣ	13r+10		56		HP4+3点消費。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
実験体（ロストナンバー）	P	N		
研究者	P 尽力	N 嫌気		
	P 庇護	N 無関心		
都築京香	P 好奇心	N 猜疑心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果：	衝動判定のダイス+LV個。侵蝕率基本値+5。							
鮮血の奏者	3	4	セットアップ	視界	単体	自動	-	
効果：	LV点以下の任意のHPを消費。ラウンド間、攻+[消費したHP*3]。							
オリジン:レジェンド	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果：	【精神】を使用した判定の達成値+[LV*2]。							
氷の回廊	1	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	飛行状態で戦闘移動。移動距離+[LV*2]m。							
災厄の炎	3	3	メジャー	至近	範囲(選択)	〈RC〉	-	
効果：	「攻:+[LV*3]」の射攻。対象・射程変更不可。							
ブラッドスパイク	3	3	メジャー	至近	範囲(選択)	〈RC〉	-	
効果：	「攻:+[LV*3]」の射攻。HP3点消費。1ラウンド1回。							
プラズマカノン	3	4	メジャー	視界	単体	〈RC〉	-	
効果：	「攻:+[LV*5]」の射攻。							
CR:サラマンダー	2	2	メジャー	-	-	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	-	
効果：	C値-[LV]（下限値7）。							
かしずく歯車	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	めっちゃ魚釣れる。							
炎の理	★	-	メジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果：	PKﾌｧｲﾔｰ!!							
効果：								
効果：								
効果：								

PC2
シナリオロイス:都築 京香
推奨感情 P:好奇心/N:猜疑心
カヴァー/ワークス 指定なし/レネゲイドビーイング
キミはとある遺産を守護するレネゲイドビーイングだ。
キミの元にある日、訪れた少女に「遺産を巡って悲劇が起こる」と告げられる。

PC2
シナリオロイス:メシア
推奨感情 P:連帯感/N:隔意
キミはメシアがなぜいなくなったのかを知っている。
理由は簡単だ、キミがメシアを殺したのだ。
殺してほしいと、そう頼まれた故にキミはメシアを手に掛けた。
そしてメシアは笑顔で死んだのだ。
なぜ彼(彼女)が今際の時に笑っていたのか、キミは分からないままでいる。

PC2の作成ルールについて
出自は人工レネゲイドビーイングとすること。
また、遺産をもとに作られた存在であるためオリジンはレジェンドとすること。
※人が制御できる遺産として作られたのがPC2だが、結果としてそれは失敗に終わった。
しかしその存在を知られると不都合が多いため遺産の守護者という役割を与えられたのだ。